

シマアオジやカシラダカの減少と陸鳥モニタリングの重要性

尾崎清明 (山階鳥類研究所)

日本におけるシマアオジの繁殖個体の減少はすでに 1980 年代から報じられているが、近年ユーラシア大陸で広範囲に減少の傾向が確認されている。そもそもシマアオジの繁殖地はユーラシア北東部で、越冬地は東南アジアの狭い範囲であったが、繁殖地の分布が西に拡大し、ヨーロッパまで至ったとされている。しかしながら西に広がった個体群も越冬地はかつての地域に固執しており、中国の南東部の狭い範囲を通過する渡りを行っていると考えられている。そこでは食用のための大量捕獲が長い間行われてきて、そのことがシマアオジの個体数減少の主要因ではないかと分析されている。同じような繁殖地の拡大をしたカシラダカについても、ヨーロッパでの減少が認められており、福島潟鳥類観測ステーションなどでは 1980 年代以降急激な減少が確認されていることから、シマアオジと同様の懸念がある。そんな中 BirdLife などの呼びかけで、2016 年 11 月中国広州において「シマアオジと渡り性陸鳥の保護に関する国際ワークショップ」が開催された。そこで報告されたヨーロッパ、ロシア、中国、東南アジア諸国などでのシマアオジの個体数動向や陸鳥のモニタリングの現状を紹介する。